

# 鬼北町での「南海トラフ巨大地震」最大被害想定

平成25年12月に公表された「愛媛県地震被害想定調査結果」での最大被害想定です。想定される震源地等は各項目で異なります。

## ■最大震度 7

### ■揺れ・液状化による被害

	揺れ	液状化	合計
全壊(棟)	2,847棟	66棟	2,913棟
半壊(棟)	3,783棟	123棟	3,906棟

### ■火災の被害

出火件数	焼失棟数	残出火件数	焼失面積
9件	4件	26件	0.00㎡

### ■死者数

建物倒壊	土砂災害	火災	その他	合計
175人	1人	0人	5人	181人

### ■上水道断水、下水道支障の状況

	直後	1日後	1週間後	1か月後
上水道断水	97.5%	96.7%	90.0%	40.2%
下水道支障	93.0%	78.4%	28.3%	0.6%

1. 役場職員に届いた地震発生を知らせるメール 2. 役場職員の一部は負傷者を救護所まで運び容態を伝えるトリアージ訓練を実施 3. 避難所便利グッズ作成講習会の様子 4. 鬼北町消防団女性消防隊は炊き出し訓練を実施



鬼北消防署長  
盛澤 朗彦  
Akihiko Morisawa

## 一人ひとりの心掛けで被害を最小限に

本年は、7月豪雨災害において被災された方々に心から哀悼とお見舞いを申し上げます。

近年は、南海トラフ地震への警戒に加え、他の自然災害でも「50年に1度の稀にみる被害が…」と、耳にする機会が多くなりました。

今現在、皆さんはどのような備えをされているのでしょうか。阪神淡路大震災以降、自助・共助・公助の役割分担について議論がなされ、「自分の身は自分で守る」と生命の尊重にまで言及されています。正常性のバイアスという言葉が耳にされた方も多いかもかもしれませんが、「私は大丈夫」、「皆が…しないから大丈夫」、「あってもがいなことないわい」と判断してしまうことが自助の行動を麻痺させてしまうという事実気付いていただきたいです。災害に直面した

場合、自分自身の安全を確保し、怪我をしないこと。最低限の自活ができる物資の備蓄が必要なこと。一人ひとりの心掛けが災害に強いまちづくり、しいては「減災」につながります。

住民の皆さんが、それぞれに危機感を共有し訓練を重ね、問題点・疑問点を克服し、地域の連帯感を深めていくことが肝要と思います。

危機感を煽る訳ではありませんが、南海トラフ地震を研究すると、東日本大震災・広島豪雨災害・熊本地震のように映像で見た手厚い公助は、鬼北町において物理的に期待できないことが想像できます。自主防災組織が形骸化することなく、さらなる進化を遂げられ、共助の中核をなす組織に成長することを祈念いたします。